覚

一、銀百弐拾目也

　　右者其御村方用水引取之節、年々

　　我等方江為御休所御引請申候ニ付

　　壱ヶ年分茶代･油代･座料として銀

　　三拾匁年々申請来候処、此度弟を

先茶屋源兵衛家相求茶屋為致度候ニ付

右茶代当年ゟ六ヶ年分先渡被下度段

頼入候處、為御手傳四ヶ年分御渡被下

慥ニ請取忝存候、前書来ル卯年迄

申請候上者不相変御宿可申候間無

御心置御出可被下候、為念如斯御座候、以上

　　　　　　　　　　　阿保茶屋

文化十三子年十二年廿四日　徳右衛門(印)

　　　　　　　　　　 三宅村

　　　　　　　　　　 　取次清左衛門(印)

　　　　　　　　　　　 同　吉助(印)

　　　　　 三宅村

　　　　　　　 庄屋年寄中